

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ウエル城北
（ユニット名）	1, 2F 共通
所在地 （県・市町名）	静岡県静岡市葵区城北65
記入者名 （管理者）	佐藤八重子
記入日	平成 21 年 2 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“あなたらしく笑顔いっぱい”をモットー(理念)として入居者様の笑顔をいっぱい引き出せるよう、また職員も共に笑顔で過ごせるよう心がけて支援している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内にモットーを掲示し、カンファレンスやスタッフ会議等でも常時話題にあげている。いつもその人らしい生活とはどのようなことか考えながら支援の方法を模索している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームの玄関には大きく書かれたモットーが掲示されており、面会にこられた家族や外来者の目にふれる様になっている。また月一回発行されるホーム便りにも毎回掲載し家族に周知してもらえるようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外気浴の際には、通りかかれる方々と気軽に挨拶をかわしたり、時には入居者様の輪に加わって一緒に歌をうたっていたり楽しく交流している。蕎麦打ちや手芸教室も開催し、ご近所の方々がホームに足を運んでいただける機会を作っている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内のお祭りには毎年参加させていただいている。また近くの幼稚園とは運動会に招待してもらい見学したり、ホームの行事に園児さんたちが訪問していただいたり交流している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	手芸教室や蕎麦打ち教室等近隣の方たちとのふれあいの中で、介護の相談を受けたり、必要に応じて専門の機関を紹介したりしている。運営推進会議の中でも話題にあげ、協力できることはないかと話合っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員が一人ひとり行い、改めて意識しなおしたり、評価を活かしてサービスの質を上げていけるように取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの活動報告、外部評価の評価結果の公表及び改善等の取り組み方法など話し合っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	具体的には今は行っていない。	○	今後は相談の機会を持ち、サービスの向上を図っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は研修にて学ぶ機会はあるが、知識が不十分である。このような研修を受ける機会が少ないため職員はほとんど理解していない。	○	難しい問題で繰り返し研修を受ける必要があると思いますのでこれらの研修を受けられるようにしてもらいたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を基に学んだり、研修に参加し、お互い防止に努めている。職員がストレスをためたり、勤務が過重にならないよう適切な職員配置をしたり、福利厚生等にてリフレッシュ出来るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行っている。十分に時間を取り、具体的に説明をするなどわかりやすく説明している。疑問点はいつでも気軽に尋ねられるように配慮している。面会時などには声かけをして、解らないことや不満な点などないかきいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や苦情をきく機会がない。	○	介護相談員の受入を検討していきたい。 自治会などを検討して意見や要望を話し合える機会を作っていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	急な体調変化(風邪、発熱、その他)はその都度家族に報告、受診の医療機関も家族と相談している。その他については、面会時や月に1回ホーム便りと一緒に担当者から一筆箋で知らせている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの要望や不満、意見等小さなことでも聞かせるよう全職員に話している、要望、苦情等を記入するノートを作成し、記入及び報告をしてもらっているが、充分とは思っていない。苦情受付の窓口(ホーム内、外部)を知らせるポスターを目に付くところに掲示している。苦情、要望ポストを設置している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、スタッフ会議を設けている。その中で要望や意見など提案されたことは検討している。運営者は出席していないため報告している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族が遠方に居住し、頻繁に面会できない場合など、状況に合わせて対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を抑えるよう職場環境の整備、ストレスの軽減やリフレッシュを図れるよう福利厚生に力を入れている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望者には資格取得の授業料及び検定料、受検のための交通費を助成している。単体の施設のため内部研修は困難だが、外部の研修には出席している。また研修を受けた職員は必ずスタッフ会議のなかで報告会をして他のスタッフに内容をつたえている。	○	技術や知識等経験年数にとらわれず、定期的に振り返る機会を作り、マンネリ化させないよう努めていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ協会への参加、グループホーム連絡協議会への入会及び報告会等への参加をし、交流や情報交換、勉強会の機会としている。	○	職員のなかには当ホームしか知らない職員もいる、希望者には他のホームでの研修や交流の機会も作りたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	過重に勤務にならないように適切な人員配置をする。福利厚生制度の利用でストレスの軽減、リフレッシュを図る。忘年会、歓送迎会等職員との親睦を兼ねて行っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		○	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の家庭訪問時から入居者や家族との関係作りを心がけている。日頃からコミュニケーションを密にし話しやすい関係を作っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常に相手の話に耳を傾け、しっかり聴く姿勢を心がけている。家族の介護の方法や考え方など肯定的にとらえ、労いの言葉かけを忘れないようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の相談機関やサービス事業者と交流し、利用者や家族にとって一番よいサービスが受けられるように情報や知識を得ておくようつとめている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじみながら徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設見学、体験入居等から徐々に馴染んでもらい出来るだけ、リロケーションダメージが少なくなるよう配慮している。家庭訪問時には家族とも話し合い、なじみの家具や品物を持参してもらうようにしている。また入居当初は家族の面会を頻回にしてもらう等の協力をしてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯干し、洗濯たたみ、茶わん拭き、買い物、調理の手伝い、ごみだし、テーブル拭き、などできそうなことはやってみたり、一緒にしたりしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りやバス旅行へ同行してもらったり、ターミナル期には居室に泊まって一緒に介護に当たってもらったりしている。出来るだけ家族にもホームにきてもらい、家族の絆を大切にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関係がしっくりいっている場合は良い関係を継続できるように、またあまり関係がよくなかった場合でも家族と利用者の仲立ちをすることによって関係が修復されるように配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年利用してきた美容院を入所後も利用している。また面会者が気兼ねなく来られるように雰囲気作りに注意している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う方の席を隣同士にする。または入居者が他の入居者のお世話をするなどのよい関係がみられる。散歩や外出時に車椅子の人を歩ける人が押してくれたりする。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設に移った場合でも時々面会に行っている。またホームで亡くなられた方のご家族の方が亡くなられた後も、ホームの行事に協力してくれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いくつかの選択肢をもうけて選んでもらったり、本人の言葉を聞き入れるよう努力している。その時々状況や本人の気分なども大事にしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報収集、センター方式によるアセスメントを行い、全職員が情報を共有している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日健康状態の観察のためにバイタルチェックを行っている。その時々状況に合わせた日々を過ごしてもらるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンス(フロアー会議)で職員全員で意見を出し合い、介護計画を作成している。 本人や家族の意見や要望がなかなか掴みきれないことが多い。	○	本人の日頃のなにげない言葉に注意していきたい。 家族の希望も充分聞き入れていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変わった場合には速やかに話し合いを行い、変更している。	○	緊急の場合は特に、本人や家族の意向が反映されにくいので気をつけてたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日報、申し送り、カンファレンスで情報を共有しながら気がついたことなどを話し合ったり、介護計画の見直しにいかしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在は必要性のある入居者がいないため行っていない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は必要性のある入居者がいないため行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は必要性のある入居者がいないため行っていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族の希望を優先している、必要に応じて、そのかかりつけ医とも連携し、家族にまかせっきりにせず、入居者の情報交換をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医の受診、相談できる医師がいる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護施を兼務しているため、日常的に入居者の健康管理や相談にのっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合はホームでの生活の様子等を情報提供している。入院中も出来るだけ面会を行い、医療機関との交流や家族支援をし、退院前の医師からの話し合い等には積極的に参加している。またこちらから面談を依頼し、情報を得るようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病状が悪化した場合やターミナル期についてなどその都度、家族の意向や今後の方向性などを医師を交えて話し合っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の希望、常時医療が必要ではないなどの条件が整えば、ホームでの看取りもしていきたいと考えている。しかし医療行為等の難しい問題もあり、「出来ること、出来ないこと」の見極めが明文化されたものはない。現在はかかりつけ医や家族の協力を得て、ターミナルケアを行っている。	○	重度化、終末期に向けてのホームとしての「出来ること、出来ないこと」を具体的に上げ、明文化して入居時に説明及び同意を得ていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や本人の了解を得て、入居前から入居後の生活全般や本人の今後に役立つであろう情報を共有している。本人の立場に立って間かえる姿勢をいつも持っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の意思を尊重し呼び方についても本人や家族の意向も聴き決めている。日頃の声かけや対応も穏やかで安心した生活がおくれるように配慮している。記録物の扱いにも注意を払っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	飲みたいもの、食べたいもの、入浴の時間、行きたい場所など、寝る時間等出来るだけ選べるように選択肢をあげて選んでもらえるようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけその人らしい生活が過ごせるようにしたいが、忙しさから業務に流されがちになっている。	○ 日々の過ごし方で、全員とはいかないがもう少し希望に添えるようモット努力したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみには充分配慮している。毎月訪問の理美容師に来てもらい、散髪している。衣類もその人にあった清潔なものをきてもらっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は栄養士が入居者の好みを配慮してつくっている、買い物、調理、片付けも分担して入居者と一緒におこなっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	晩酌にビールや焼酎のお茶割りをのんだり、喫煙所で煙草を吸う(ライター、煙草はホーム預かり)おやつも食べたいものを一緒に買いに行ったりと楽しんでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意の訴えの無いような人でも排尿のパターンをつかみ、出来るだけトイレで排尿できるよう努めている、取りとめのない会話の中から「お便所」「おしっこ」などの単語を聞き分けトイレへ誘導すると排泄できたりしている。	○	一人ひとりの排泄パターンをつかめるようもっと努力していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を面倒がる人には好きな入浴剤を入れ楽しく入れるように心がけている。入浴したいという希望は優先しているが、時間については希望どおりに出来ないことが多い。	○	夜寝る前に入りたいという人の要望に応えられないでいる。むかしから寝る前に入っていた人にとっては当然の要望である、検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中ずっと座っている利用者は、休息と足の浮腫みをとるために短時間の午睡、また寝る前に足浴をして温めたりしている。	○	寒い時期はどうしても活動不足になり勝ち、質のよい睡眠がとれるよう昼間の活動を充実させたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物、食事の支度、後片付け、茶わん拭き、マッサージ、ごみだし、それぞれの役割を持たせ、生活に張り合いをもたせている。ドライブや季節の行事、誕生会など楽しめる企画も多く行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自身で管理し使っている人もいるが、お金を使う機会が少ない。	○	一緒に買い物に出掛ける機会を多くもちたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望にそって気軽に外出することはなかなか困難であるが、ドライブや買い物、図書館、散歩、日向ぼっこなど行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年1回、バス旅行を行っている。今年は家族にも参加してもらい、親睦と家族の絆を深める旅行でした。また希望に沿って墓参りに行ったり、図書館に行ったりしている。	○	一人ひとりの希望をかなえる個別の外出支援も検討したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望に応じて対応している。 家族や友人へあてて書いた手紙を郵便局まで一緒に出しに いっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	夜間の睡眠時を除いては自由に面会してもらっている。親し みのこもった挨拶や日頃の様子を報告したり、気を使わず、 楽しい雰囲気の中で面会してもらえよう配慮しています。 時には一緒に食事や行事に参加してもらったりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定 基準における禁止の対象となる具体的な行 為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケ アに取り組んでいる	身体拘束廃止の研修に参加し、全職員が身体拘束廃止に 向けて取り組みつつある。	○	身体拘束ゼロ宣言ができるように全職員の意識を高めてい きたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関 に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵を かけないケアに取り組んでいる	各フロアーの入口のドアは電子錠がかかっている。	○	昼間、短時間でも自由に出入りできる時間帯を作ってい きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安 全に配慮している	日中の見守りや観察を充分に行う、夜間も巡視を行い、事故 のないように配慮する。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではな く、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取 組みをしている	危険物はホーム預かりとするが、必要時には目の届くところ で使用してもらい安全に配慮する。また確実に保管する。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ ための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた 事故防止に取り組んでいる	研修や勉強会を通して防止に努めてる。ヒヤリハットや事故 報告書を活用し、事故の起こる背景や原因がある場合には		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	心肺蘇生法、AEDの使用法など消防署で訓練を繰り返している。急変時に備えて、救急車の要請の方法や事故発生時の対応方法をマニュアル化している。	○	救急車の要請の方法や事故発生時の対処法等いざというときにしっかり対処できるよう訓練していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練をしている。昼間の職員の多いときばかりではなく、夜間の職員の少ないときも想定して訓練をした。近隣の職員を短時間で招集、2階フロアから滑り台を使って避難させる等。近隣の人たちとはよい関係を保てるようにしている。夏祭りや蕎麦打ちなどに招待して関係作りをしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日頃から家族とのコミュニケーションを密に行い、リスクが生じられる可能性が出てきたときには話し合いをしていく。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	いつもと何か違うという、観察力を身に付け、早期に異常を見つけた確に对应と報告をする。その情報は申し送り、業務日誌、カンファレンスによって全職員に共有する。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の薬について全職員が理解しているわけではない。	○	薬剤師による、勉強会を計画していきたい。職員が薬について理解できるように資料を整えたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便を出やすくする薬を使用したり、朝食後に排便を促す坐薬を使ったりすることが多い。十分な水分の摂取、散歩、廊下を歩くなどしている。	○	食事の内容や適度な運動も取り入れていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	その方の能力に応じて援助している。促しの必要な人、全介助の人、すべて自分で出来る人と様々である。朝、就寝時は行っているが毎食後は来ていない。	○	自立している人時々チェックしていきたい。食後の口腔ケアを毎食していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量をチェックしている。なかなか食がすすまない時は介助している。主食の量を測っている。一日の目標摂取量を強要しているように思うときもある。	○	強要にならないよう、気をつけていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルを利用する。日頃から手洗い、うがいを心がけ、汚物の処理は適切に行うようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチンの衛生、アルコールやハイターにて殺菌、食器は洗浄後乾燥機にて熱殺菌、布巾はハイター消毒、電子レンジによる殺菌している。冷蔵庫も定期的に清掃している。食材も賞味期限に注意して調理している。エプロンを調理時は専用のものを使っている。	○	複数の職員が携わるため、衛生管理や食材の管理が徹底されていない、今後は徹底していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りはお花を飾ったり、ベンチが置いてあり、オープンになっている。時にはちょっと休ませて下さいと、ベンチに座って休んでいかれたり、外気浴をしていると散歩中の人声が声をかけてくれたり、挨拶をかわしたり、一緒に輪に入っておしゃべりや歌を歌ってくれたりされている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾り(お正月、ひな祭り、クリスマスツリーなどなど)ポスター、絵や創作物の展示、写真の展示、観葉植物、などがあり、家庭的な雰囲気をつくっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれお気に入りの場所があったり、自由に居室と居間を行き来している。ソファで気の合うもの同士で話をしたり、テレビを一緒に見たりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や家で使っていた家具を使ったりされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室のエアコンで適温になるよう室温調整している。24時間換気システムで換気している。	○	冬は換気が不十分になり勝ちである。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手摺が設置されている。トイレには立ち上がり支援バーや跳ね上げ式肘掛け、浴室にも手摺りが設置されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室や居間にカレンダー、時計を見やすい位置にかけている。声かけにも時間や日にちがわかるようにしている。トイレの場所がわかるように張り紙をしている。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内に菜園や花壇がある。洗濯物干し場が広くあり、職員と一緒に布団をほしたり、洗濯者を干したりしている。玄関先もそれほど広くはないがベンチで外気浴をしたり、よい季節になるとバーベキューをしたり、花火をしたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○1F	①ほぼ全ての利用者の
		○2F	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○1F	①毎日ある
		○2F	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○2F	①ほぼ全ての利用者が
		○1F	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○1F	①ほぼ全ての利用者が
		○2F	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○2F	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○1F	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○2F	①ほぼ全ての利用者が
		○1F	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○2F	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○2F	①ほぼ全ての家族と
		○1F	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○2F○1F	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○2F○1F	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○2F○1F	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○2F○1F	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○2F	①ほぼ全ての家族等が
		○1F	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)